様式1

令和 4 年度　学校評価表

学校教育目標	「夢や志に向かって挑戦する生徒の育成」
a ミッション	「コミュニティ・スクールを基盤として取り組む『心を育てる教育』の実現」
a ビジョン	「学校と地域が協働し，子供の未来を拓く学校」

尾道市立向東中学校

評価計画						自己評価						学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	g 7月 達成値	g 1月 達成値	h 達成度	i 評価	総合評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
学力の向上	主体的に学び続ける生徒の育成	対話的な学びの充実により学習意欲の向上と確かな学力の定着を図る。	（1）道徳の授業を通した対話的な学びの推進 ① 教員どうしの学び合いの推進 ・年間６回の研究授業の実施 ・公開研究会の実施 ② 道徳の授業作り ・課題設定の工夫 ・発問の工夫 ・対話の充実 ※生徒どうしの対話，教材との対話，自己内対話など，意図を持って対話を仕組む （2） 対話的な学びを教科の授業へ広げる ① 対話的な授業の充実 ・個人の考えを持つ場の設定 ・ペアトークや班活動の充実 ・考えた事を表現する場の設定 ② 表現活動の充実 ・個人やグループで考えた事を表現する場の設定 ・タブレットやホワイトボードの活用の工夫 ③ 基礎基本の充実 ・各教科で単元テストや小テストの定期的な実施 ・「本質的な問い」につながる課題設定 （3）道徳教育を中心としたカリキュラムマネジメントの実施 ・道徳の重点項目と，行事や道徳の授業を関連させた強化期間の実施	○生徒アンケート 「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。」に肯定的に答える生徒の割合 R３年度1月 ９３%	95%	85%	93%	98%	B	A	各授業の中で対話的な学びの場面を設定し，対話をとおして学びを深めることができた。	9	1		・生徒アンケート，教員アンケート，加えて学力調査も改善があった事を伺える結果となっている。一方，方策である程度具体的な取組内容を挙げられているのにそもそも，これらの事をどう実施したのか？実施したから改善につながったという方策に対する効果が見えない。因果を明確にすることで次につながる活動となるのではと考える。 ・自己表現や対話は，今までの育ってきた環境も影響しますね。それでもこれだけの評価は素晴らしいですね。授業参観でも対話を取り入れている様子を見させていただきました。体育大会でも先生，生徒が一緒になって楽しんでいる姿に感動しました。雨天という状況が余計にそうさせたのかもしれません。学力調査の2学年の落ち込みは，慣れによる緊張感のゆるみでしょうか？受験に向けてまら復活しますかね。 ・授業参観や研究会の参観をさせていただき，対話的な授業づくりがどの学級も着実に定着していることを感じた。教職員がベクトルを合わせ，授業づくりをすることで，学力の向上につながることを実感した。生徒がまじめに授業に向かっていることも先生方の努力の賜物と思う。 ・昔の授業では，先生の問いに対して，勉強のできる決まった子が答え，その他の子どもは参加できてなかったように思うが，今の対話的な授業で子ども同士が意見を出し合いまとめて発表する形であれば普段発表しない子どもの意見も取り上げられ，先生に肯定してもらえれば，その子にも自身となり成長となると思う。先生はその中でもうまく表現できていない子どもなといないか，細かな所へ目を配り，気を配り，全員が参加できる授業づくりを目指して頑張ってください。 ・グループに分かれて意見を交換する場でも，笑顔で楽しそうにお互いの考えを聞く姿が見られ，雰囲気の良さが伝わってきた。道徳の授業だけでなく，他の授業へと広がっていることをみても，成果が出ているのだと思う。校内の廊下の掲示物も工夫されており，目を引いた。 ・対話的な学びができていると思いました。 ・道徳の対話的な学びが他の教科へも波及してきていると感じます。そのベースにあるのが生徒同志の人間関係にあると思います。安心安全な人間関係が成立しているからこそ自身の思いが表現できていると思います。対話によって自己の視野を広げさせるとともに表現するために基礎学力の定着が図れればと思います。コロナ禍ではありますが，様々な体験により主体的に行動させる学びのきっかけ作りをしてください。 ・先生方が大変工夫を重ねられて対話を大切に授業づくりを進めていることが様々なところへ良い方向で反映されています。学校全体も整頓が行き届き，落ち着いて学びに向かえるこの環境の好影響も大きいと感じます。 ・昨年より伸びている。良い事だと思います。先生方の努力だと思います。 ・行事や授業参観を通して，生徒の主体性が発揮できていることを実感した。道徳の授業だけでなく，全ての授業の中で対話的な学びを意識して取り入れられた成果だと評価する。	・方策に対する効果が見えるような評価方法を検討していく。 ・今後も対話的な学びの質を高めていく。 ・発表が苦手な生徒も，しっかり考えたり，自分の意見を伝えたりできる雰囲気づくり，授業づくりを進めていく。
				○教員アンケート 「授業では，対話的な学びの場面や，考えた事を表現する場面をつくっている」に肯定的に答える教師の割合 R３年度３月　８０%	90%	92%	100%	110%	A		全ての教員が，各教科の授業の中で対話の場面を作り，授業づくりを進めることができた。					
				○ 学力調査 １２月の学力調査で，全国平均を１００としたときの基本問題の正答率 正答率÷全国平均×１００	100%	－	99.6%	99.6%	B		１年生(102.5%)，２年生（96.7%）だった。１年生はおおむね学力が定着している。２年生は全国平均より低い結果になったが，昨年度94.0%であり，伸びがみられた。	10				
				○重点項目強化期間の年間実施回数 ○行事後の生徒の感想や表情から達成感が得られているかみとる。	2	1	－	-	A		体育大会や文化祭では生徒が主体となって進め，全員全力で頑張る姿を見せることができた。保護者や地域の方のアンケートからも生徒の頑張りに感動する声を多くいただいた。生徒の表情や感想からも達成感があふれていた。	10				
生徒指導の充実	心身ともに成長しようとする生徒の育成	生徒主体の活動の活性化と体制を一新し，「人ひとりが大切にされた相談しやすい体制の構築	（1）生徒主体の活動の活性化 ①委員会活動の充実 ・生徒会による目標やテーマの設定 ・目標やテーマにそった各委員会の生徒主体の活動の実施 ②特別活動の充実 ・課題解決に向けて生徒が企画・運営する活動の実施 （2）生徒一人ひとりが大切にされた相談しやすい体制の構築 ①生徒の良さや頑張りを認める取組の充実 ・生徒どうしが認め合う活動の実施 ・教職員が認める活動の実施 ②面接ウィーク，スクールカウンセラーによる面談の実施 ・担任だけでなく全教職員が面接を実施 ・スクールカウンセラーによる面談を１，２年生が全員実施	○生徒アンケート 「生徒会活動，学校行事，学級活動など主体的に取り組んでいる」という項目に肯定的回答をする生徒の割合	85%	77%	82%	96%	B	B	学校行事や新しい取組など生徒が主体的につくりあげたり，実行したりする場面を多く設定し，生徒の力でやらせきることができた。教師発進の活動ではなく，生徒発進の活動を増やすなどして活性化をさらに進める必要がある。	10			・生徒主体の活動は生き生きした学校のエネルギー源ともなると思います。 ・行事については積み重ねが重要だと思います。前年の経験をもとに後輩が改善をすることで，充実することができるし，生徒の主体性も身につくと思います。生徒が考えるきっかけ作りをお願いします。 ・先生達の仕掛けがあっての生徒の主体性だと思います。 ・生徒主体でやりきったという達成感や成功体験の積み重ねはとても大事だと思う。 ・生徒の自主性，主体性が伸びる取組がされている。 ・評価指標が延びており，一年通じて生徒の意欲が高まっているものと思う。今後は活動そのもの客観的に評価する指標を設けてもいいのでは？ ・校内の雰囲気はとてもいいと思います。そんな中でも登校できない生徒がいるのが不思議に思います。 ・教師と生徒の間で，信頼関係ができているからこそ，主体的に活動ができている。	・学校行事において，生徒主体の活動を昨年度より多くする。 ・授業や日々の活動，行事等において，問題提起を多くし，生徒が主体的に考えたり，行動したりするきっかけを増やす。 ・生徒の意見を拾い上げる機会とその意見に関して生徒が主体的に解決していく活動を増やす。 ・活動が効果的だったのかという視点で指標を設けていく。
				○生徒アンケート 「周囲から自分の良さや頑張りを認められている」という項目に肯定的回答をする生徒の割合	85%	78%	81%	95%			学校行事を中心に，全員が全力を出し，互いの頑張りを認め合い，互いに高め合う雰囲気をつくることで，生徒が安心して学習や活動できる環境ができた。	9		1	・生徒の主体性を尊重するというのは，この年代だと難しいこともあるような気がしますが，どうなんでしょう？ ・この項は方策が具体的目標値を挙げられている（全教職員，全員）。先ずそれが成し遂げられたのかが必要なのではないか？ ・生徒同志のつながり，先生と生徒のつながりができ，生徒が安心して活動ができることは学校生活のすべてが向上すると思う。ただ，ぬる湯につかっているのであれば，良くないので，切磋琢磨の場面も意図してつくる必要もあると思う。 ・多感な年頃で，思いもよらない悩みを抱えている子どももいると思う。担任の先生やカウンセラーの人がいて，相談しやすい環境があれば本当に助かる子どももいると思う。 ・様々な先生と関わる中で，自分に合った先生を見つけることは，学校生活を送っていく中で，大事なことだと思う。親に話しづらい事も先生には話せる子どももいると思うので，関係づくりは大事にしていただきたい。 ・達成度が101%と，素晴らしいと思いました。 ・再び学校に，と少しずつ登校できる生徒が増えているのは，この学校（関わる先生）が信頼できると感じた可能性もあり，引き続き「相談しやすい環境」への配慮を続けて欲しいです。 ・各体験ごとに互いに評価し，良かった所を伝え合うことで自己肯定感を高められると思います。教員はほめる材料を見つけ，声かけを意識してください。生徒一人に誰でも良いから，関われる教員がいれば良いと思います。情報共有をし，組織的な指導を継続してください。 ・必要な時学校に相談できる人がいるのが良い事だと思います。不登校，長期欠席が少なくなるのではないでしょうか。 ・個々の安定が，周りの友達との関係をよくしていると感じる。根底には，教師や周りから感じる，信頼されているという自信が自己肯定感につながっている。	・生徒が安全で安心して活動できる環境を整えた上で，生徒どうしが課題と改善策を出し合い，高め合う場面を設定する。 ・今後も特定の先生や生徒との関わりではなく，様々な人との関わりをつくっていくことを基本として，相談しやすい環境を構築していく。 ・方策の具体的目標値を設定し，生徒や教職員にアンケートを実施していく。
				○生徒アンケート 「必要なときに，相談できる人が学校にいる」という項目に肯定的回答をする生徒の割合	85%	81%	86%	101%	A		担任や担任以外の先生との面談，スクールカウンセラーとの面談を設定し，生徒が様々な人に相談しやすい環境をつくることができた。 多種多様な悩みを抱える生徒もおり，生徒が相談しやすい先生が対応するなど，組織的に行うことができた。					
信頼される学校づくり	地域や社会に貢献できる生徒の育成	保護者への情報発信を充実するとともに業務改善を推進する。	（1）情報発信の充実 ○保護者との連携を密に，きめ細やかに即時対応を行う。 ① 些細なサインも見逃さず，問題発生時に即時対応する。 ② 心配事がある時に電話連絡及び直接連携をする。	○ 保護者アンケート 「心配事がある時学校に相談することができる」と答える保護者の割合	95%	85%	90.2%	94.9%	B	B	「相談しにくい理由」 ・先生も忙しいのに迷惑かなと思って相談できません。 ・理解してもらえないだろうから。 ・元々の性格で大人に相談するタイプではない。 ・先生方がおられる時間帯に電話等，することができないため 引き続き，生徒と積極的にコミュニケーションをとり，生徒一人一人を理解する必要がある。また，時間帯が難しいと回答している保護者にはコドモンの活用を促していく。	10			・相談できにくい理由の解決策の実行をお願いします。できることから動き始め，課題が出てくれば改善するというPDCAサイクルで保護者の依頼につなぐことができれば良いと思います。 ・大事な話は電話もしくは直接会ってということになるかもしれないが，気になることがある時にすぐに聞ける環境が整っていると安心感がある。 ・保護者にアンケートを実施し，問われたことは意義深い。この結果から，次の方策を考える良い根拠になる。 ・課題がある程度明確であり，対策もコドモンの活用と具体的施策を挙げられているため，さらなる改善を期待しております。 ・保護者もいろいろですからね。 ・生徒は確実に伸びている。先生たちの自己評価が厳しいのではないか。	・積極的な生徒指導と，保護者連携に取り組み，生徒と保護者との関係を築いていく。 ・生徒のがんばっている事等についても保護者連携していく。 ・仕事等で学校に連絡をするのが難しい保護者には，心配事などもコドモンで相談できるように検討していく。
			○学校行事等のオンライン配信	○保護者アンケート 「HPを月２回以上閲覧している」と答える保護者の割合 **→コドモンの積極的活用** **保護者アンケート コドモンの活用に対して肯定的評価の割合**	80% ↓ **90%**	5%	96.2%	106.8%	A		コドモンの活用に対しての肯定的評価が96.2%だった。 「いつでも気兼ねなく学校に連絡できるので使いやすい」という意見もあり，配布物の添付等もできている事から肯定的に捉えることができている。保護者からの連絡は欠席連絡のみの使用にしているので，その他の使用についても検討していく必要がある。	10			・時代に合わせた変化で保護者との距離が縮まったのは良いと思います。より（メンタル面でのSOSなど）ハードル低く，教職員のプライベートタイムに響かない配慮も合わせて，進化すると良いと思います。 ・情報発信は充分にできていると思います。継続していただくとともに，保護者へのアピールをお願いします。 ・コドモンの活用によって，次の業務改善にもつながるのではないかと思いました。 ・コドモンを使って学校へ連絡することができるのは，とても便利で助かっている。先生との双方向のやり取りができれば，より利便性が上がると思う。 ・コドモンの活用で，保護者も高い評価をされ，また教職員の働き方改革にもつながり良いツールと思う。 ・コドモン以外にも，グーグルのツールの有効活用など色々な手段を検討されればいいのではと思う。 ・コドモンは便利だと思います。ただ，使い方がよく分かってない保護者も一部いらっしゃるようです。（資料室のことなど）詳しい説明の機会があると喜ばれるかもしれませんね。	・コドモンを引き続き積極的に活用し，情報発信をさらに行っていく。 ・欠席連絡以外の活用の検討に取組む。
				○保護者アンケート 「学校だよりを見ている」と答える保護者の割合 →削除	80%	73%										
			（2）業務改善 ○勤務時間を意識した働き方を促進する。	○教職員の働き方改革アンケート「児童・生徒と向き合う時間が確保されている」で肯定的評価をしている割合	85%	53%	53%	62.3%	C		「生徒と向き合う時間」の定義を確認したが，数値は変わらなかった。業務改善に取り組んできているが，さらなる改善が必要である。	8		2	・生徒と向き合う時間について具体的な定義が必要と考えます。同じ基準で評価し，先生方の変容の把握をしてください。 ・他校での取組など，私も勉強しようと思います。 ・先生方はもっともっとと思っておられると思うので，どうしても評価は低くなってしまうのではないだろうか。 ・このアンケートの項目では主観的な回答にならないか危惧する。 ・業務改善の項として「生徒と向き合う時間の確保」を指標とするのはあまり良くないのではないか？協議会の議論にもあったように，定義があいまい。むしろ「生徒とは関係ない業務」を抽出した方がいいのでは？ ・正しく評価されているのかもしれませんが，先生の自己評価が厳しいように感じます。 ・アンケートの設問をもう少し具体的に	・定義に対して，個々の基準が同じかどうか図れない評価指標となっていたため，同じ基準で評価できる指標にする必要がある。
				○定時退校日に勤務時間終了後，45分以内に退校する者の割合	90%	70%	80%	88.8%	B		行事やテストの時期は難しいが，定時退校日への意識は高まってきている。引き続き，行事やテストの時期であっても，定時退校日の取組はできるようにしていく必要がある。	9		1	・先生方が必要としている助けで地域がフォローできることがあれば一つずつでも話し合って連携を取っていくと良いと思います。 ・繁忙期と閑散期があると思います。平均的に時短ができるように取り組んでください。 ・先生方の負担を家庭や地域に何か分担できないだろうか。 ・業務改善する中に地域と協働という要素を取り入れられないか。力になりたい。 ・「生徒と向き合う」事が「価値作業」であるならばそうでない作業はどう無くすことができるのか？圧縮することができるのかをしっかり分析しないといけないと思う。 ・無理なさらないようにして下さい。	・時代に即した働き方が推進できるよう業務改善に取組み，定時退校日への取組は継続していく。

【自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100　C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。